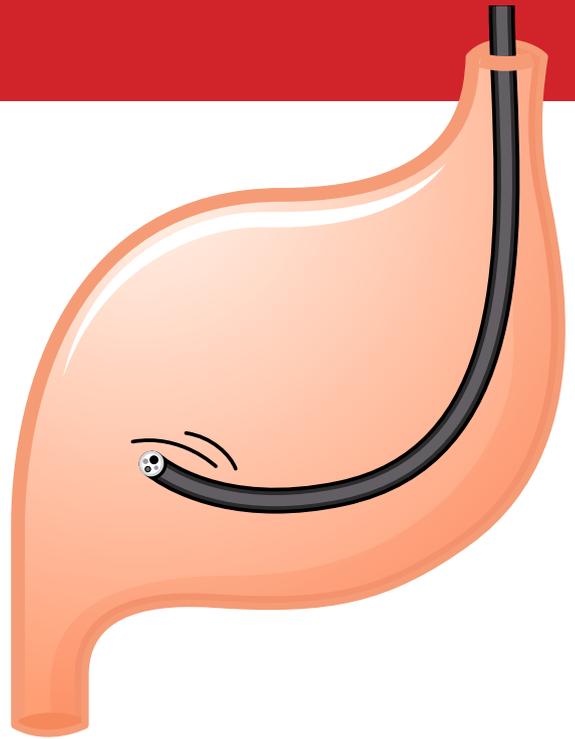


# 上部消化管（食道・胃・十二指腸） 検査のススメ



## X線（バリウム）検査と内視鏡検査について

胃部X線（胃バリウム）検査で異常な所見を認めた場合は、  
内視鏡検査での精密検査を行うことになります。

上部消化管X線（胃バリウム）検査は、飲んだバリウムを粘膜表面に薄く広げて、レントゲン写真を撮影して、胃や十二指腸の形や粘膜の凹凸を観察します。バリウムはさっと流れるため、食道の小さな病変や平坦な病変を見つけるのは困難です。

上部消化管内視鏡（胃カメラ）検査は、小型のカメラを装着した管を口または鼻から挿入し、食道・胃・十二指腸を直接観察します。

内視鏡検査では、粘膜の微細な変化を鮮明に観察できるため、凹凸の少ない病変や出血なども確認できます。また、粘膜に異常が見られた場合、小さい組織を採取して（生検）、組織診断を行うことができます。

### X線（バリウム）検査と 内視鏡検査 それぞれのデメリット

X線（バリウム）検査では、少量ですが放射線被爆があります。偶発症として、バリウムの誤嚥や検査台からの転落などがあります。

内視鏡検査では、直接管を体内に挿入することによる身体の負荷（挿入時の嘔気や苦痛、心拍や血圧の上昇など）があります。

偶発症としては、ほとんど起きませんが、粘膜の傷害・裂傷、前処置の薬でのアレルギー反応、ショックなどがあります。

### 鎮静剤について

経口内視鏡検査時の苦痛を和らげるために、鎮静剤を使用することができます。呼びかけに反応できる程度の量の鎮静剤を注射して検査を行います。

年齢や体格等を考慮して、検査医師が使用する薬の使用や投与量を決めますが、個人の体質や当日の体調により、薬の効き具合に差が出る場合があります。

検査終了後も薬が効いているため、1時間程度は院内でお休みいただけます。鎮静剤を使用して検査を行う場合は、検査後その日1日は、車やバイク、自転車の運転は禁止となります。

### 経鼻内視鏡検査について

経鼻内視鏡は、経口内視鏡より管が細径であるため、挿入時や検査中の辛さが軽減するため、鎮静剤を使用する必要がありません。しかし、鼻の構造によっては管の挿入が困難だったり、管挿入による鼻出血のリスクがあります。

最近の経鼻内視鏡は改良が進み、精度も上がってきていますが、経口内視鏡検査に比べ、カメラが小さい、大きな病巣の切除ができないなど劣る面があります。

しっかりと病巣を確認するためには、  
経口内視鏡での  
検査がオススメです



### 検査を受ける際の 注意

- 定期的通院・治療の疾患をお持ちの方は、あらかじめ主治医に検査の施行可否について、ご相談ください。
- 定期的に服用している薬（糖尿病薬は除く）は、朝6時までに飲んでください。
- 糖尿病で内服薬やインシュリンを使用している場合は、低血糖防止のため、内服薬や注射はしないでください。